

重点項目 2 『地域を知る（分かる）仕組みをつくる』

～地域の情報を幅広く集め、必要な情報を誰もが手軽に分かりやすく得られる地域づくりを推進します～

2-1 情報を集める

地域の行事やイベントの情報だけでなく、日常的な見守りや安否確認を通して、生活課題の把握に取り組みます。

	地域でできること	社協でできること	行政でできること
情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民が集える行事やイベントを企画し、積極的に参加する ○ 地域の中で日常的な見守りや安否確認ができる仕組みをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の社会資源を把握する（活動内容、場所など） ○ 地域の行事やイベントに積極的に参画する ○ 関係機関との連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各課で企画する市民が集える行事やイベント等の情報を収集し広報紙やホームページに掲載する ○ 地域住民と平常時も含めた災害時の安否確認が出来る地域の支え合い体制の構築 ○

2-2 情報を届ける

必要としている情報を必要な方に届くような情報提供の仕組みづくりに取り組みます。

	地域でできること	社協でできること	行政でできること
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知らない人に伝える（口コミなど） ○ 自治会の掲示板や回覧板を有効に活用する ○ 地域の情報誌を発行する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誰もが分かりやすい広報紙面づくりやリーフレットを作成する ○ 様々な世代に情報が行き届くように新たな情報ツール（ブログ、Twitter など）を活用する ○ 地域の情報を発信する役割となる協力者や協力店（企業や商店等）を募る ○ 出前講座や各種福祉の専門相談を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 紙媒体やインターネット等多様な媒体を活用した情報発信の充実を図る ○ 自治会・町内会連絡会等に参加し行政からの情報を地域に積極的に発信する

2-3 情報を共有する

一方的な情報収集・発信だけではなく、情報が相互に行き交うように取り組みます。

	地域でできること	社協でできること	行政でできること
情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日頃から近隣とのコミュニケーションを図り、学んだり、話し合ったりする機会を持つ ○ 広域的な自治会活動の検討や隣接する自治会との連携を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 民生・児童委員協議会や行政機関をはじめ関係機関との連携を強化する ○ どこに相談しても対応できる体制をつくる ○ 現状の社会福祉だより「ふくし」や社協やポラセンのホームページ等の改善等を図る ○ さまざまな地域情報の収集・発信力を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各課の相談窓口の充実を図るとともに、庁内での連携体制を構築する ○ 地域で共有すべき情報のルールづくりを構築する ○ 「ぶんじふれあいマップ」を活用し地域住民の情報共有に役立てる ○ 自治会掲示板の設置補助を行う ○ 民生児童委員協議会等の団体との連携を強化し、市民が必要とする情報の提供を積極的に図る

(現状とこれからの方向性)

現状では、福祉サービスや制度に関する情報は、広報紙やパンフレット、チラシなどを作成し、さまざまな方法で提供されています。市報や社会福祉だよりは全戸に配布され、公共施設には、さまざまな活動団体のチラシやポスター、リーフレット等が常に置かれています。

また、自治会・町内会では、回覧板や掲示板で情報が随時発信されていますが、必要な方に必要な情報が十分に届いているとはいえない状況です。

近年のインターネットの普及により、若い世代を中心にホームページやブログ、Twitter、Facebook など誰でも気軽に何時でも情報を発信・収集することができるようになりました。

しかし、こうした状況においても、住民からは「必要な情報がない」「どこに相談すればよいかわからない」「誰に聞けばよいかわからない」「情報が欲しい」などという意見が多くあがります。

支援者にとっても「どこに繋がればよいのか」「どこと連携を図ればよいのか」など関係機関との連携の強化が求められています。

地域づくりをすすめる上で情報の収集・提供・共有は必要不可欠な要素と言えます。

しかし、膨大な情報が増加・氾濫し続け、必要な情報が必要な人に行き届かなかったり、情報を探すのに時間がかかったり、どの情報を信頼すればよいのか等の課題もあります。

増加、氾濫する情報の中から、必要な情報を誰もが手軽に分かりやすく得られる仕組みづくりが求められています。紙媒体や電子媒体の情報だけでなく、地域の人々が見・聞き・感じていることを把握し、その解決に向けた取り組みにつなげていくことが目標です。

事例

2-3 情報を共有する ここねっと・五小地域

団体名：ここねっと・五小地域

活動エリア：五小校区（日吉町、内藤地区）



主な活動：地域支え合い活動の推進、地域懇談会の開催、異世代交流事業の実施、“お茶しませんか！”の開催（毎月第2土曜日午後）、“ささえあい通信”の発行など

活動内容

「ここねっと・五小地域」では、地域の情報誌として「ささえあい通信」を年3回発行しています。

「ここねっと・五小地域」は、平成17年1月からモデル事業として「地域支え合い活動」をスタートさせました。この活動の目的は「地域におけるコミュニケーションの構築」です。「地域に住んでいても地域のことが分からない」というご意見も多く、それでは、まず地域を知ることから始め、情報を発信しようと地域の情報誌として「ささえあい通信」を発行することになりました。

主な掲載内容は、「ここねっと・五小地域」の活動報告や地域の皆さんから寄せられた情報、例えばイベントのお知らせや、施設からの案内、第五小学校からのお知らせなどです。

地域支え合い活動の参加者をはじめ、五小PTA、エリア内の関係施設や団体に送付していますが、「権利擁護センター（日吉町3-29-24）」でも閲覧ができます。